新薬創出加算の理論的考察とシミュレーション分析

和久津 尚彦[1)]　　中村 洋[2)]

2014年4月

概 要

本研究は、(1) 新薬創出加算の企業側のメリットがどの程度かを把握すると共に、(2) メリットがどのような要因によってもたらされるのか要因分解する。また、(3) 加算のメリットが薬剤の特性によってどう異なるのか感応度分析を行う。ある仮想的な薬剤市場についてシミュレーションを行い、以下の結果を得た。(1) 加算のメリットは、総売上高 10%強の増加に換算できる。これは従来の有用性加算 10%強を超えるメリットであり、実際に同等のメリットを受けている新薬は少ない。(2) メリットを分解すると、持続的な実勢価格高止まりの効果が非常に大きい。加えて割引の効果もあることでメリットは更に大きくなる。(3) メリットはまた、後発品上市までの期間が長い程、或いは（一定程度なら）薬価下落率が大きい程、大きくなる。ただし、下落率は大きすぎると加算対象から外れるため、加算の維持を図る操作を行うことでメリットが最大になることが分かった。以上の分析を踏まえた政策的インプリケーションについても議論する。

キーワード: 新薬創出加算、薬価制度、インセンティブ、シミュレーション

[1)]公益財団法人医療科学研究所、一橋大学イノベーション研究センター
[2)]慶應義塾大学大学院経営管理研究科